

令和2年度3学期始業式 校長講話

令和3年（2021年）1月7日
長野県蓼科高等学校長 宮澤和人

みなさん、おはようございます。

そして、あけましておめでとうございます。

今日は、昨年の2学期終業式と同様、オンラインでお話しします。

今年は、雪は少なかったですが厳しい寒さのお正月でした。皆さんはどんなお正月だったでしょうか。

さて、年末年始休業中にも、様々な出来事がありました。

中でもとても気になるのは、新型コロナウイルスの感染状況です。佐久地域も病院や他県からの帰省者を中心に感染者が拡大し、長野県では1月3日に佐久圏域をレベル3から4の特別警報に切り替えました。東京都では昨日の感染者数は1951人、全国では6001人と予断を許さない数字です。皆さんは、日頃の消毒や密を避ける、県外や人が混みあう場所への不要不急の外出は避けるなどの行動をしっかりとってください。また授業時の換気にも注意して、万が一感染者が出たらどうするか想定しての行動を行ってください。

さて今年も、お正月にテレビを観ていて感動したのが、大学生が走った箱根駅伝です。今回はやはり新型コロナウイルスの影響で、応援団がおらず、観客もまばらな異例の開催になりました。しかし視聴率は30%を超え歴代1位になったことは、おうち時間が増えたことが関係し、お茶の間のテレビにくぎ付けになった人も多かったのではないかと思います。個人競技が多い陸上競技ですが、リレーとか駅伝は団体種目なので、ドラマを感じ私たちの感性に合っているのか、単なるタイムレース以上の特別なものがありますね。今年も正月に箱根をひたすら走る大学生の姿に涙が止まりませんでした。

結果は、昨年の勝者、青山学院大は総合4位になり、駒澤大学が最終10区でのまさかの大逆転で創価大学を追い抜き、総合1位になりました。駒沢大で最終10区を任されたのは、3年生の石川拓慎選手。石川選手は「たすきをもらう時点で少し差があったが、諦めずに、去年、同じ区間で悔しい思いもしたので、やってやろうとゴールテープに向かって走った。練習なども、いつもと違う1年を過ごしてきて、たすきにもみんなの強い思いがこめられていて、自分に任された役割を果たしたいと思った」と話していました。いまの話にあった通り石川選手は去年も同じ10区を任されていました。しかし、最後の最後で早稲田大学に追い抜かれてしまいました。その時の悔しさをばねに、1年間黙々と練習に励んできたわけです。つまり石川選手の目標設定と努力は、1年前からこの日に向けて始まっていたのです。皆さんはどうでしょうか？新年は、1年の目標を決め、誓いを立てるのにまたとない良い機会です。去年はある3年生の生徒が校長室に来て、「先生、僕の今年の目標は英語検定で準2級をとることです。頑張ります。」と伝えてくれました。

12月の終業式でも話しましたが、昨年を反省し自分の将来をよく考えて行動に移してください。

箱根駅伝では走る選手はもちろん、背後にいるチームメイト、家族、監督、コーチ、先輩や後輩、寮のまかないをする方、更には警護する白バイのおまわりさんまで、テレビではエピソードを次々に流していました。なぜ、それらの人々を取り上げるかというと、それらの方々の支えのおかげで大会は成り立っているのだということを伝えたいからです。

これは皆さんにも当てはまります。ぜひ周囲に目を向けてください。

今日も朝起きたら、皆さんのために食事をつくったり送り迎えをしてくれる家族やバスの運転手さんがいます。早くから皆さんのために校舎を開けてストーブを焚いてくれた先生がいます。昇降口で挨拶をして、皆さんを迎えてくれる生徒会の方々がいます。毎日学校周辺のゴミを拾ったり、渡り廊下を掃いたりしてくれている先生がいます。毎日お弁当を作ってくれたり声をかけたりしてくれる家族や先生、近所の人があります。

一人で生きているような顔をしていても、自分の周りのたくさんの人の世話になって生きているのです。

最期に、3学期はとても短い学期です。今日と卒業式を入れて、3年生はわずか20回、1・2年生は38回学校に来れば今年度も終了です。

1日1日を大切に、周囲に気を配りながら、日々「良い学校」になる取り組みを積み重ねてください。

3学期が充実した学期になることを願っています。

皆さん一人ひとりにうんと期待しています。

頑張ってください。

終わります。